

連合（EU）へ加盟しましたが通貨はユーロではなくリタスを基本としています。為替レートは固定されており1ユーロは3.45リタス、日本円に換算すると1リタスは約33円ほどになります。リタスへ交換した後、空港から約20分ほどのビリニュス市内のホテルへバスで移動し、日本時間では真夜中の2時頃に当たる現地時間午後8時に夕食をとり就寝しました。

〔第2日目〕

第2日目は朝6時半に起床、9時15分にホテルから専用のバスでカウナス市へ出発し、途中14世紀に建てられた「トゥラカイ城」を視察しました。ドイツ騎士団の侵略を防ぐため建設された大変に美しい城で、赤レンガの城姿が湖に映え当時の繁栄ぶりを想わせました。現在は、その地域一帯が自然公園として景観が保護され、城は博物館として利用された観光リゾート地となっています。

午後からは、カウナス市の市内観光で、第9要塞博物館やカウナス城、白鳥の美しさにたどりられる旧市庁舎、聖ペテロ・パウロ大聖堂など視察しましたが、最も印象に残ったのは最初に訪れた第9要塞博物館でした。この博物館は19世紀ロシア帝国によって造られた要塞跡で、第2次世界大戦時にはナチスの強制収容所として使われ、約5万人の人々（大半がカウナスのユダヤ人）が虐殺された場所です。博物館内は収容所として使われた当時のまま保存され、粗末な収容部屋や暖房もベッドもない独房がいくつもありました。リトニアの冬は零下20度まで気温が下がり、冬場に独房に入れられた人は一晩で凍死ぬことが想像されました。また、ここで起こった悲劇を直接見せつけるような展示はありませんでしたが館内の各部屋にはナチスの犠牲となっ

た人々の遺品や写真資料などが展示され、それらのものを見るだけで当時の凄惨さや怖さが十分な迫力で伝わってきました。

この日の晩は、「この訪問の中で最大の難関」である「カウナス市民との交流会」がありました。交流会は、カウナス市側からは副市長ほか杉原ハウスの館長、リトニア・ジャパンクラブの方々、市役所職員、リトニア日本国大使館の明石美代子特命全権大使らを招いてカウナス市街レストランで始まりました。

赤塚町長の挨拶にはじまり、次いでDrアルギマンダ・カウナス副市長、明石特命全権大使と続き、乾杯を当町の名誉町民である吉田茂さんが行いました。最初の頃は言葉が通じないこともあり訪問団の方々も緊張気味でしたが、訪問団参加者が思い思いに用意したお土産のプレゼントを渡す頃からは大変打ち解けた雰囲気の中で交流が進みました。特に訪問団アトラクションとして計画した日本の民族衣装「着物の着付け」と「盆踊り」の披露は大変盛り上りました。町長以下訪問団全員とカウナス副市長、明石大使、カウナス市民の方も加わって、全員一緒にになってレストランの中に盆踊りの輪を広げました。当初予定した2時間の交流会も1時間延長し、最後は柘植議長の万歳三唱でお開きとしました。

〔第3日目〕

3日目は朝10時にカウナス市役所へ全員で表敬訪問に伺いました。昨晩の交流会でお目にかかったDrアルギマンダ・カウナス副市長をはじめ職員の方々から温かく迎えていただきました。副市長の歓迎の挨拶に続いて町長が答礼の挨拶。続いてカウナス市へ当町潮南在住の画家森濤石氏の筆による五宝滝を描いた日本画を贈



19世紀ロシア帝国によって造られた要塞跡で、第2次世界大戦時にはナチスの強制収容所として使われた「第9要塞博物館」。



ナチス強制収容所内部の寒々とした収容部屋には、粗末なベッドが当時のまま置かれていました。



カウナス市民との交流会では、リトニア日本大使館の明石大使（右）も法被を羽織り「炭坑節」の輪に加わりました。



カウナス市役所を表敬訪問し、副市長から温かい歓迎のあいさつを受けました。